令和３年度学校評価関係者評価を検討しました

１　学習環境の快適さを実現する施設運営を目指して

今年度、一つ目の取り組みとして、利用者が学ぶ教室棟及び自学自習をする宿舎棟において、無線 LAN の修理工事を施しました。遠隔授業や web ミーティングを快適にする通信速度が得られるようになりました。二つ目の取り組みは、エアコンの設置です。近年、北海道函館地域も夏の暑さは著しさを増し、室内温度は３０度を超え、利用者及び職員の熱中症が危惧されてきました。今年度も引き続き未対応の部屋について、エアコンと共に二重窓の設置工事も行うことで、遮光、防音、防寒への対応も同時に図っています。

２　多様なニーズに応じた教育支援の向上のために

令和３年度から始まった動画コンテンツによる教材開発は、学習習慣を得られず成績に伸び悩む方が、繰り返し勉強したくなるものを目指し、引き続き検討しています。一方、国家試験合格に導くためには、利用者個々の見え方に応じた学習手段の獲得、そして学習方法の早期の確立のための支援が不可欠です。そこで、自立訓練部門と連携し、就労移行支援（理療教育）の開始前、自立訓練を利用する方を対象に、訓練期間の最後に模擬授業を導入する等、教育支援の強化を始めました。

３　地域とのつながりを通した「あはき師」の職業の魅力を伝えるための情報発信

当センターは、令和２年度に自立支援推進委員会地域連携分科会を設置することで、地域とのつながりを推進してきました。また令和３年度、近隣の大学である公立はこだて未来大学と正式な連携事業協定の締結をしました。今年度は、両者の活動が一体化し、情報デザインの専門家との協同編集を経て、あはき師の仕事の魅力を伝える冊子「ahaki」の創刊に至りました。また映像表現としての情報発信にも着手しており、あはき師が視覚に障害のある方の魅力ある職業選択の一つとして、そして「あはきの施術」が地域で暮らす人々の健康への関心を高めるものとなるよう進めて参ります。